



たゆみなき「安全」の追求

役員及び社員が一丸となって取り組む安全管理体制の強化

2000年3月の中目黒における日比谷線列車脱線衝突事故の反省に立って、このような悲惨な事故を決して繰り返さないという固い決意を持ち、輸送の安全に対する意識改革や設備改良に取り組んできました。私たちは「安全」を確保するためには、全社員がたゆまぬ努力を継続することが必要であると考え

ます。日比谷線列車脱線衝突事故を風化させることなく、全社員が安全を最優先する意識を持ち、安全文化を築き上げることが私たちの大きな務めです。

たゆみなき「安全」の追求、これが鉄道を運行する私たち東京メトログループの使命です。

■ 安全方針

東京メトロでは、たゆみなき「安全」の追求のため、安全方針として、「輸送の安全に係る役職員の行動規範」を制定し、安全を最優先する企業風土の醸成と定着を図っています。

また、各事業年度ごとに「安全防災対策の重点目標」を定め、当該目標を肝に銘じ、役員及び社員が一丸となって安全管理体制の強化に取り組んでいます。

輸送の安全に係る役職員の行動規範

- 安全の確保を最優先として、一致協力して輸送の使命を達成することに努めます。
- 輸送の安全に関する法令や規程類を理解し、遵守して、厳正かつ忠実に職務を遂行します。
- 常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めます。
- 職務の遂行に当たり、憶測に頼らず確認の励行に努め、疑いのあるときは、最も安全と思われる行動をとります。
- 事故・災害や、その他輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがある事態が発生したときは、人命救助を最優先に、相互協力のもと、速やかに安全かつ適切な処置をとります。
- 安全に係る情報は、迅速かつ正確に関係箇所に伝達し、共有を図ります。
- 常に問題意識を持って行動し、業務の見直しが必要な場合は、積極的に対処します。

■ 日常の安全確保／危機管理

日常の安全確保のため、社長を最高責任者として、安全統括管理者の鉄道本部長をはじめ、運転管理者の運転部長、乗務員指導管理者の乗務管区長及び検車区長それぞれの責任を明確にして、安全管理体制を構築しています。

安全管理の方法としては、輸送の安全に関する計画の策定、その計画の着実な実行、実行状況を管理・検証し、改善するというPDCAサイクルを運用し、安全情報を共有することにより、

安全管理の実施、不断の見直しに取り組んでいます。

そのほか、安全に係るさまざまな設備や施設の整備・改良を実施し、お客様の安全を確保しています。

一方、危機管理として、事故・災害等が発生した場合は、非常体制のもと、速やかに対応処置を行っています。また、地域防災ネットワークを整備し、同時多発的な事態にも柔軟に対応します。

2014年度の主要な取組み

■ お客様の安全確保と安全意識向上の促進

① 自然災害発生に備えた取組み

2011年3月に発生した東日本大震災の経験に基づき、東京メトロではさまざまな対策により、災害発生時におけるお客様の安全への取組みを続けています。対策の一つとして災害により帰宅が困難となったお客様に駅構内で一時的にお待ちいただくために2011年から順次、飲料水、アルミ製ブランケット、簡易マット、簡易トイレなどの防災用品を、東京メトロが管理する全駅(170駅)に継続して備蓄しています。さらに2014年度には、東京メトロが管理する全てのエレベーター内に飲料水や簡易トイレといった非常用品を新たに設置しました。万が一、エレベーター

が最寄り階に移動できず途中で停止したままとなった場合には、お客様を救助するまでの間、エレベーター内に設置した非常用品をご使用いただくことが可能となります。

② お客様の安全意識向上の促進

2010年3月から全国の鉄道事業者等と共同でエスカレーターの安全利用を呼びかけるキャンペーンを実施しています。2014年度は7～8月にお客様のエスカレーターのご利用に際し、転倒されたり、他のお客様と衝突し転倒させるなど危険な事故につながる場合もあるため、安心して利用できるよう「みんなで手すりにつかまろう」などを呼びかけました。